
在宅血液透析(HHD)患者の栄養状態とフレイル診断-施設血液透析(CHD)患者との比較

医療法人衆和会 長崎腎病院

○山下万紀子 原野詩織 佐藤泰崇 田賀農恵 高木伴幸 澤瀬健次 橋口純一郎 原田孝司 船越 哲

【目的】

在宅血液透析患者(HHD 群)の栄養評価とフレイル診断を行い、施設血液透析患者(CHD 群)と比較した。

【方法】

対象は50歳以上のHHD群11名、CHD群11名とした。本研究に同意が得られたHHD群11名に対し、CHD群はマッチング法(交絡因子となりそうな要因を一致させる)により選択した。

栄養評価はBMI・GNRIと血液検査よりHb・Ht・CRP・Alb・T-cho・ChEを、フレイル診断は基本チェックリスト(25点満点;8点≦フレイル)を用いた。

【結果】

栄養状態はHHD群においてGNRI,Alb,Tcho,ChEが有意に高く、その他の項目は両群で差がなかった。フレイル診断では、基本チェックリストの平均点数がHHD群1.9点、CHD群5.4点(P=0.0006)とCHD群が有意に高く、HHD患者全員がフレイル状態ではなかったのに対し、CHD患者のうち2名がフレイル状態であった。

【考察】

在宅血液透析患者は施設血液透析患者に比べ栄養状態がよく、フレイルのリスクがより低い傾向にある可能性が示唆された。